



あさちが^{つゆ}露 (重要文化財)

1冊

鎌倉時代末期写

縦12.5cm 横15cm

鎌倉時代、貴族は武家に政権を奪われ、先祖の栄光の時代を思慕して『源氏物語』などの王朝物語を模倣した物語を作ったと言われている。

これらの物語は『擬古物語』と呼ばれ、その数は非常に多い。

例えば文永八年(一二七一)成立の物語和歌集『風葉和歌集』には当時存在した約二〇〇の物語名が載っている。だが、その内の一八〇近くの物語は現在散佚、ちりぢりになつて無くなっている。

『あさちが露』もこれらと同じく散佚したと考えられているが、昭和二十七年伊勢松阪の

旧家から天理図書館に収蔵された掲出書が、その後の調査で、まさにその『あさちが露』であると判明した。物語史上、極めて幸運な作品である。

性格が少し好色に傾いた貴公子と不思議なくらい生真面目な貴公子の二人と、二人が心を寄せる薄幸の姫君という登場人物の設定は、確かに『源氏物語』の匂宮と薫などの設定の影響がうかがわれる。だが主人公たちの親世代の物語が影にあり、読み進めるうち、謎解き式に過去の物語が現れる手法など、この物語独自の工夫も見られる。

末尾を少し欠くのが残念だ

が、前出『風葉和歌集』掲載の和歌に、姫君は「尚侍」、好色な貴公子は「入道関白」とあり、姫君は入内して帝の寵愛を得、貴公子は位を極めたのではないかと、その後を想像することができ、かえって興味深い。

源氏・伊勢・竹取など有名な物語でも成立と同時期の伝本は見られないのだが、この『あさちが露』は創作とほぼ同時代となる鎌倉時代末期の書写と考えられている。この点においても幸運かつ貴重な資料であることは確かである。

(天理図書館 西口尚子)

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>
 平日(午前9時~午後5時半) 土・日・祝(午前9時~午後4時半)
 ただし2月16~25日は曝書、26日は月末のため休み
 (本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください)